自分の命は自分で守る

団結力が防災力へ――地域防災訓練

町および伊達崎地区住民自治協議会主催による地域防災訓練が10月19日、役場および町民体育館で行われ、約200人が参加しました。今年は、浸水および土砂災害の発生を想定し、ドローンを活用した被害状況確認訓練や避難所開設訓練、炊き出し訓練などを実施。住民らが主体となり、迅速な避難所開設の流れや要介護者の避難確保などを確認しました。また、「洪水災害と防災気象情報」をテーマに、福島地方気象台職員による防災講演も行われ、防災や災害発生時の対応などについて知識を深めました。

いつ起こるかわからない自然災害を防ぐことはできませんが、被害を予防・軽減するために、日ごろから防災力を高めることはできます。町は、常に防災体制の整備や充実を図っていますが、災害発生時にいち早く被害に対応できるのは、個人や地域の力です。最悪の事態を想定し、平時から一人一人が防災について考え行動することが、自分や家族の命、地域の命を守ることにつながります。

1・2_避難所に設置する簡易テントを協力し合いながら組み立てる参加者のみなさん　3_町社会福祉協議会職員による要介護者の避難確保訓練　4・5_住民自治協議会と赤十字奉仕団のみなさんによる炊き出し訓練。豚汁とアルファ米200食を炊き出す　6_洪水などが実際に発生した状況を再現できるアプリを使用し、災害の怖さを体感　7_避難所などでもきれいな水でシャワーを浴びることができる設備の展示　8_気象台職員による防災講演

災害に備えて

自宅や職場周辺の災害発生リスクを把握していますか。町ホームページ掲載のハザードマップ(下記二次元コード)から、災害発生の危険性が高い場所を事前に確認しましょう。

確認エリア

- 土砂災害(特別)警戒区域
- 浸水想定区域
- 家屋倒壊等氾濫想定区域

▼こちらもチェック▼

福島県防災アプリ

防災情報や災害情報など、いざという時に迅速で適切な避難行動がとれるよう、必要な情報や機能が一つに集約された防災アプリ。いつ起こるかわからない災害に日ごろから備えましょう。

地域を守る備えを再確認 町消防団秋季検閲

町消防団の秋季検閲が10月19日、ふれあい公園で行われ、消防団員ら約200人が参加しました。

当日は、秋空の下、観閲から始まり、分列行進や通常点検、ラッパ隊の演奏披露、小隊訓練、ポンプ車操法訓練、小型ポンプ操法訓練などが行われ、日ごろの練習成果を披露しました。

続く式典では、町消防団長表彰をはじめとする各種表彰が行われ、消防活動に貢献した団員らを表彰。受章者代表謝辞では、第2分団第1部の山内健介班長が「大変光栄に思う。この栄誉は、団長をはじめ、先輩や同僚の指導の賜物。今日の感激を肝に銘じ、消防人として地域住民の安全・安心を守るために、よりいっそう精進する」と述べました。参加団員らは、消防技術の確認と技術向上の決意を新たにしました。

1_団員らが連携し放水までの動作を披露するポンプ車操法訓練　2_観閲　3_各分団による分列行進　4_統監の髙橋町長による車両隊点検　5_謝辞を述べる受章者代表の山内健介班長　6_一体感を披露する小隊訓練　7_士気を高めるラッパ隊演奏

火の用心を啓発 秋の全国火災予防運動パレード

秋の全国火災予防運動期間にあわせ、町内防火パレードが11月9日、町全域で行われました。消防車両5台が出動し、消防団や女性消防隊、女性防火クラブから約20人が参加しました。

消防車両は役場前を出発し、町内をくまなく巡回。女性防火クラブ員らが車両に乗り込み「これから寒い時期となり、火を使う機会が多くなります。火の元には十分注意しましょう」などと呼びかけ、火の用心を啓発しました。

▼町消防団では、随時団員を募集しています。興味のある人は、生活環境課　危機管理係（☎5822123）まで問い合わせください。町の安全・安心を一緒に守りましょう。

▲町内をくまなく巡回し、火の用心を呼びかけるため、役場を出発する消防車両